



# えっ！酒宴の席の流行歌？

## 「君が代」のルーツは堺の寺にあった？

君が代の歌詞がそのまま書いてある屏風が堺市内のお寺にあると聞いて何故？と思っていました。経済学者で日本共産党元衆議院議員の丁藤晃さんが最近出版した「エコノミスト、歴史を読み解くー君が代、軍人勅諭から狂言、ミッキー・マウスまで」と言う著書の中で「堺の地で君が代を考える」の章で疑問が解かれていました。

### 「もの始まりみな堺 三味も小唄もみな堺」

堺小唄の一説ですが、三味線が堺ではじめて作られ、その三味に合わせて歌われた隆達節（高三隆達も 堺で作詞され・）



顕本寺にある屏風。絵の両端に隆達直筆の歌が46首書かれており右端一番が「君が代」（大阪民主新報社提供）

### 「君が代」はポピュラーなラフソング？

「君が代」は隆達節の中で代表格だったようです。屏風に書かれた四十六首など殆どの歌本の巻頭が「君が代」。キーワードは「君」。隆達節には恋歌が多く、二人称語（君、そなた）がよく使われています。現代のポピュラーソングも「君」と「そなた」に代わり、「あなた」がきめどころででてくることから、新しい民衆音楽の時代を切り開いたことの象徴でもあるように思うとのこと。

### 彼はなぜ君が代を巻頭にのめたのか？

隆達の生涯は、戦国時代、信長・秀吉時代から徳川時代初期でした。百年以上続いた戦国時代の戦乱で全国いたるところの民・百姓は苦しめられました。戦争も終わり平和な時代へ希望が見えてきたこと、自分も町衆の友人たちも生きながらえたことなど、「君が代」には、「やつ

### これまでの「君が代」の歴史の通説は？

一八六九年（明治二年）、薩摩藩藩士の大山巖氏が、薩摩琵琶歌が元歌とされていた「君が代」の作曲をイギリス歩兵隊の軍楽隊長に委嘱し、後に国歌となった言うのが通説です。しかし、彼は一八六二年（文久二年）から一八六八年（明治一年）までの間ほとんど京都勤めだったことから、当時流行していた隆達節が有力との説です。

### 薩摩と堺と隆達節の接点があった！

当時、薩摩藩は、琉球貿易を独占していて、荷を貨幣に換えるために堺商人の力が必要でした。また、薩摩藩が紡績所を堺につくったことから関係者が大勢堺に来ていた。堺は貿易港として長い歴史があり、古くから船着場近くに遊郭がありそこで

### 法華宗 顕本寺



堺市堺区宿院町東4丁にある顕本寺

### 筆者の結論は・・・

君が代の国歌化は明治政府の権力者による天皇制イデオロギーのでっち上げの進行、軍人勅諭から教育勅諭へ・・・これまで民衆が大事にしてきたこの歌の中身が抜き取られ、代わりに天皇制賛美と忠君愛国の歌にすり替えられてしまったことは重大な欺瞞である。以上述べたことから「君が代」は国歌にふさわしくないと考えられる。付け加えて言えば、酒の席で歌っていた歌を、子どもたちに厳肅な顔をして歌わせるのはいかがなものか。更に「君が代」問題は、日本の文化のあり方にもかかわっている。日本の古典芸能を大事にする立場から「君が代」の問題を再考しなければならない・・・。

### 高三隆達（たかさんりゅうたろう）と（りゅうたろう）隆達節

高三隆達は一五二七年、堺の業種商の高三家に生まれ、日蓮宗顕本寺（堺区宿院町東）の僧になり、その後家業の業種商を継ぎました。彼は、今で言うシンガーソングライターです。小唄をいくつも創り、歌い、隆達節として大流行したようです。